

# 「駅体制の見直し」(水戸駅)

について提案を受ける。

7月29日、水戸支社より以下の通り提案を受けました。

JR 東日本グループ経営ビジョン「変革2027」の実現に向け、効率的な業務執行体制を構築し生産性の向上を図り、経営体質の抜本的強化に取り組む必要があることから、駅体制の見直しを実施する。

## 1. 実施内容及び実施箇所

水戸駅

管理体制、輸送体制の見直し

(助役) 変7H-1形(不日) × 1を廃止する。

(輸送) 波動体制を見直す。

## 2. 要員体制 標準数

(助役) 16 → 15 ▲ 1

(輸送) 15 → 14 ▲ 1

## 3. 教育

必要な周知・教育は実施する。

## 4. 実施時期

2021年10月1日(金)

## 主な議論

(組合) 助役の変7H-1形(不日)とは輸送総括助役でよいか。

(会社) そうだ。

(組合) 輸送総括助役の位置付け・役割は。水戸駅では異常時対応、構内作業等、輸送業務に特化した重要なポジションと捉えている。廃止により職場の安全レベルが低下することを我々は危惧している

(会社) 輸送総括助役が居なくなることで、安全レベルが低下するとは考えていない。他の管理者(駅長・副駅長・輸送助役・営業助役)や地区指導センターとも連携し、駅全体を運営・管理していく。

(組合) 輸送の波動体制見直しとは。

(会社) 震災後の2012年4月に貨物会社が撤退した操車・入換業務を補うために波動でいわゆるC1・C2という勤務を設定した。当初はどの程度の業務量があるのか未知数であったが、2019年度・2020年度とも年間で2つの担務で合計100日程度の実績であった。今後もレール輸送車両の置き換えで更に減少が見込まれることから今回見直すこととした。

(組合) 操車・入換業務の機会の減少による技術継承・教育の考え方は。

(会社) 作業が無くなるわけではないので、技術継承は課題と認識している。

(組合) 今回の見直しで作業ダイヤの見直しはあるのか。

(会社) 管理者では若干の見直しはあるが、一般職で変更はない。

職場の安全の「要」のポストが削減されることで、

安全レベルの低下はあってはならない！！

全社的に多発する事故・事象に歯止めをかけるため、

営業職場の声を基に申し入れを行い議論していきます！！